

---

青

融

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青

### 【Nコード】

N1602G

### 【作者名】

融

### 【あらすじ】

青だけが好きだった僕の白い君への短い恋

## （前書き）

気に向くまま書きました。

僕は青だけが好きだ。

だから、青い空と青い海を見に行く。

今日は曇りだった。

雲で覆われた空は正直嫌だ。

雨なんて以ての外だ。

そんな僕にも一度だけだが、青以外に一回だけ好きな色が出来た。  
僕は恋をした。

白いワンピースを着た女の子に。

君は眩しいくらい白かった。

服、顔、足全て白かった。

その時から白が好きになった。

僕はその日からずっと、君の姿を目で追っていた。

雲が空

を覆っていても、気にならなかった。

僕の世界には君がいるだけで十分だった。

青い空も青い海もいらなかった。

ただ、白い君を見ていた。

僕は多分その時だけ、青より白が好きだった。

ある日だった。

君は赤いワンピースを着ていた。

いつも着ていた白いワンピースではなく。

僕は怒りと悲しみを覚えた。

何故、君は白ではなく、赤なのか？

君には白が一番似合うのに。

僕は聞いた。

「何故赤いワンピースを着ているの？」

君は答えた。

「赤のほうが好きだから。」

僕は走った。

僕の恋は終わった。

僕の好きな君は白い君で赤い君ではなかった。

第一僕は赤が一番嫌いだった。

血を連想するからだ。

だから、赤い君は嫌いだ。

そして、白い君は僕の中から消えた。

その時、僕は白は好きではなくなり、青がまた一番好きになった。

今日も僕は青い空と青い海を見に行く。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1602g/>

---

青

2010年10月12日10時22分発行